

# 企画展



柄鏡 江戸時代後期 個人蔵



円鏡 室町時代 個人蔵

## 和鏡 —時代と意匠—



鏡台 江戸時代中期 個人蔵

平成20年 9月18日(木)から  
11月18日(火)まで

開館時間／午前9時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)

会期中の休館日／10月15日(水)

観覧料／一般320円(260円) 大・高・中210円(160円)

小学生160円(110円)

( )内は20名以上の団体料金

無料になる場合

- ・65歳以上の方
- ・身障者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方
- ・市内の小・中・高・専修・高専生(ただし、土曜日と日曜日のみ)

※ 身分を証明する手帳等を必ずご提示ください

いわき市勿来関文学歴史館

〒979-0146 福島県いわき市勿来町関田長沢6-1 TEL&FAX0246-65-6166

# 企画展 和鏡

—時代と意匠—



日吉下遺跡出土和鏡(レプリカ)  
平安時代中期 いわき市教育委員会



円鏡 室町時代 個人蔵



鏡箱 江戸時代中期 個人蔵

和鏡とは平安時代後期に成立した、日本独特の文様を配置する鏡のことをいいます。

和鏡は奈良時代に舶載された唐鏡をもとにして作られました。唐風の瑞花が和様の松・梅・楓・山吹・菊などに置きかえられ、空想的な鳳凰などの瑞鳥が、現実に日本の山野や水辺にあそぶ鶴・雀・千鳥などに交替し、松鶴鏡(しょうかくきょう)・山吹双雀鏡(やまぶきそうじゃくきょう)・菊花双鳥鏡(きっかそうちょうきょう)といった日本独自の情趣をもつ典型的な和鏡が完成しました。鎌倉時代に入ると表現はより細密となり、高肉で重厚味が加わります。鏡背文様は牡丹を大きく現わした牡丹蝶鳥鏡(ぼたんちょうとりきょう)などが流行しました。室町時代に入ると文様に行きづまりをみせますが、円鏡に手持の柄をつけた柄鏡(えかがみ)が作られるようになります。やがて江戸時代になると柄鏡は和鏡の主流となり、より自由な絵画的文様表現がみられるようになりました。

本展では古代から近世までの和鏡とその関連資料約28点を展示いたします。各時代の鏡の意匠に注目し、そこに表わされた美意識を感じていただきたいと思います。



柄鏡 江戸時代後期 個人蔵



柄鏡 江戸時代初期 個人蔵

## 期間中のイベント 万華鏡づくり

クルクル回すたびに模様が変わっていく万華鏡。  
楽しく簡単に万華鏡クラフトを楽しんで見ませんか？

- 日時 平成20年10月13日(月) 10時~12時
- 場所 吹風殿
- 定員 先着20名(小学生以上対象)
- 参加費 500円(材料費一部負担)
- 要予約 申込みは電話かFAXで勿来関文学歴史館まで 0246-65-6166
- 申込受付期間 9月22日(月)~10月3日(金)



## いわき市勿来関文学歴史館

〒979-0146 福島県いわき市勿来町関田長沢6-1 TEL&FAX0246-65-6166



交通のご案内

乗用車：JR 勿来駅から約5分  
常磐自動車道 勿来ICより約10分